

地域包括ケアネットワーク No.80

非常時こそ活躍できる体制整備

高梁医師会理事 野村 良明

高梁医師会と高梁市は、4年前から市内の病院と診療所との連携をとり、看護職の質向上を図るための合同研修や人材確保に努めている。令和元年度には企画連絡会議を10回、研修会は12回開催している。

今年、新型コロナウイルス感染拡大により、医療現場では感染の不安と闘いながら現場に立ち、3密を避けるため各施設では研修会を全面的に中止し、必要な会議のみに絞っている。院外の会議には参加しないという方針をとっている施設もある。現在の状況が安定する見通しは立たず、今後の対策が必須となる。

一昨年は、豪雨災害により交通網が寸断された中、避難場所での感染予防や健康保持などの課題が見えた。今回の新型コロナウイルス感染症拡大でどのように対応できるか、さらに大きな課題である。今後も災害は繰り返し襲ってくると考えなければならない。

このような状況の中で、ICTやWEBでの各施設の情報交換や会議を行うことは、多忙な業務の中で移動にかかる時間や感染リスクを低減できるので、この機会に構築することを計画した。

1. 目的：①看護介護の質向上
②非常時（感染症、自然災害発生時等）にも滞ることなく連携でき、地域での安定した生活の支援

2. 連携機関：各医療機関（4病院+医師会）、各在宅介護支援事業所、各訪問看護ステーション、市役所等

3. 内容

計画A：各病院看護管理者、各介護支援事業所、訪問看護ステーション管理者がICT・WEBを使用して会議、研修を行う連携を作っていく。研修科医・勉強会は晴れやかネットテレビ会議システムを使う。第1回目の連絡会議はこのシステムでテレビ会議を行っている。

計画B：高梁市内の医療介護関連施設や市の連携課が簡単に情報発信、連携できるホームページを作成し、参加者の持っているスマホに連携用のアプリを入れる。このアプリを起動することで伝えたい情報、知りたい情報の受け渡しができる。災害発生時支援の必要状況や感染状況の把握、人材確保のための素早い情報共有ができる。こうして早期に対応することで二次災害、二次感染を最小限にとどめられる体制を作る。高度な個人情報を伝えるときは晴れやかネット・ケアキャビネットを使う。

非常時においても正しい知識を持ち対応できるための研修会を行い、地域への貢献を目指している。